

令和5年度
会津若松市
男女平等に関する作文コンクール
入選作品集



会津若松市

目次

令和5年度 会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会 会長 木村 淳也

●小学生低学年の部

最優秀賞	カラフルな世界に	謹教小学校	三年	鹿目 <small>かのめ</small>	亜南 <small>あなん</small>	さん…1
最優秀賞	男の子も女の子も楽しく	行仁小学校	二年	小瀧 <small>こたき</small>	きお	さん…3

●小学生高学年の部

最優秀賞	一人一人が活やくできる社会へ	一箕小学校	五年	松林 <small>まつばやし</small>	玲奈 <small>れいな</small>	さん…5
優秀賞	多様性ってなんだろう	東山小学校	四年	坂元 <small>さかもと</small>	一輝 <small>いつき</small>	さん…7
優秀賞	平等な家庭をつくっていくために	城北小学校	五年	竹田 <small>たけだ</small>	勇斗 <small>はやと</small>	さん…9

●中学生の部

最優秀賞	固定概念の打破を願って	第一中学校	二年	櫻井 <small>さくらい</small>	凜子 <small>りんこ</small>	さん…11
優秀賞	時代にあった男女平等	会津学鳳中学校	二年	江川 <small>えがわ</small>	結咲 <small>ゆいさ</small>	さん…13
優秀賞	祖母が教えた男女平等	会津学鳳中学校	二年	甲斐 <small>かい</small>	泰平 <small>たいへい</small>	さん…15
優秀賞	性別にとらわれず	一箕中学校	二年	塚田 <small>つかだ</small>	陸斗 <small>りくと</small>	さん…17

※同賞については氏名五十音順です。
※公表の承諾を得た作品を掲載しています。
※各作品の講評は、選考審査を行っていただきました会津若松市男女共同参画審議会委員の皆様によるものです。

令和5年度 会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会

会長 木村 淳也

わたしたちは誰でも、ひとりひとりがかけがえのない一人の人として尊重され、すべての人が幸せになる権利を持っています（日本国憲法第13条）。会津若松市は、日本国憲法の精神をわたしたちの暮らしの中に実現するため、平成12年に「男女共同参画都市宣言」を行い、平成16年に「会津若松市男女共同参画推進条例」を施行して、よりよい社会の実現に向けた取組を進めています。

男女平等に関する作文コンクールは、より良い社会の実現に向けて策定された第5次会津若松市男女共同参画推進プランのコンセプト「次代を担う子どもたちへの期待」のもと実施されています。

今年度の作文コンクールは、小中学生合計で499作品（小学生低学年7作品、小学生高学年56作品、中学生436作品）と今までにないほど多くの方に応募いただきました。すべての作品に対する厳正な審査の結果、最優秀賞4作品（小学生低学年2作品、小学生高学年1作品、中学生1作品）、優秀賞5作品（小学生高学年2作品、中学生3作品）が選出されました。

作品は、家庭における家事分担や子育ての有様に関すること、スポーツや職業における男女の異なりに関することなど、子どもたちが暮らしの中の身近な体験や学びから得た「気づき」を題材に男女平等についてよく考えまとめられていました。さらに、SOGI(※)をテーマとしてまとめられた作品も見受けられ、どの作品も素晴らしい作品ばかりでした。

作品の審査を通して、年齢や性別にかかわらず、多様性を尊重する社会に向けた意識が多くの方々の中に育まれていること、そして、少しずつですが着実に社会が変化していることを実感しました。

みなさんには、ぜひ、作文コンクールの経験を忘れず、「性別にとらわれず、ひとりひとりの人権が尊重され、個性と能力が生かせる」社会、そして、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向けて、ひとりひとりができることに取り組みながら一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

(※)SOGI(ソジ):性的指向とジェンダーアイデンティティを表す英語(Sexual Orientation & Gender Identity)の頭文字をとった言葉。これは、「LGBT」よりも広く性の多様性を考える概念であり、「LGBT」の人たちを特別視するのではなく、個人のあらゆる性的指向やジェンダーアイデンティティを尊重するという考え方です。

優賞
最秀

カラフルな世界に

謹教小学校 三年 鹿目 亜南

わたしが、一学きの図工の時間に友だちがこんな会話をしていました。

「男なんだから、ピンクを使うなよ。」

と聞こえてきました。聞こえた方を見てみると、Aくんがかいた絵にピンクの絵の具が使われていて、Bくんが強い口調でもんくを言っていました。Aくんは、こまった様子でだまっていました。わたしはそれを聞いて、いやな気持ちになりました。男だから、男らしい色ってなんだろう？女らしい色ってなんだろう？と思いました。

わたしは、にじ色が好きで、青も赤も黄色も緑も黒も好き。きらいな色なんてない。使っちゃいけない色なんて、考えたことはありません。

わたしはHIPHOPのダンスをやっていて、HIPHOPファッションが家族全員大好きです。ク

ラスの友だちからは、男の子みたいと言われます。言われると、モヤモヤした気持ちになります。女らしい服って何かな。男らしい服って何かな。と考えました。みんなが女らしい服だったら、自分らしさがなくつまらないと思います。それがこせいだと、わたしは感じます。世界には八十億人いじょうの人がいて、住んでいる国も、はだの色も言語もちがいます。好きな色も服も好きな事もちがはずです。わたしは国さい交流協会にようち園のころから入会して、いろいろな国の人と交流しています。みんな、生活も服も食事も文化も日本とはちがいます。でも、みんなちがって、みんないいと思います。みんながしあわせで、ハッピーだったらいいと思います。そして、世界のちがいをみとめ合えたらいいと思います。でも、やっぱりみんなが同じ考えになることはできないから、わたしや身の周りにいる人から、少しずつ相手の気持ちもを理かいして、大切にしていあげられたらいいと思います。

講評

男性らしい色や女性らしい色とは何かを疑問に思
い、人はそれぞれ異なる好みを持つことが個性であ
ると気づきました。

また、国際交流協会を通して、異なる国での生活
様式、服装、食文化にも理解を深めました。

広い視野でお互いを理解し、尊重することが大切
であり、そのメッセージは「カラフルな世界に」の
テーマにふさわしく、秀逸でした。

優賞
最秀

男の子も女の子も楽しく

行仁小学校 二年 小瀧 きお

この前ひこうきにのったとき、男のキャビンアテンダントさんが私たちのたべもののみものをはこんでくれました。むかしはこのしごとはほとんどは女の人のしごとだったことと、そのころのしごとの名前はスチュワーデスだったけど今は男の人も女の人もかんけいなくどちらでもできるしごとになったからキャビンアテンダントという名前にかわったことをお母さんが私に教えてくれました。私は男の人しかできないしごとと女の人しかできないしごとがあつたんだということを知りました。ほかに、ほいくしさんやかんごしさんもむかしは男の人がほとんどいなくて、ほぼさん、かんごふさんと言われたことがわかりました。

私のいえではお父さんだけがやることやお母さんだけがやることはきまっています。おしごとやお

りようりやしよつきあらいやおそうじはお父さんもお母さんもどちらもします。お兄ちゃんも私もできるときはお手つだいをします。でも、高いところのおそうじやまどふきやおもいものをはこんだり雪かたしはお父さんがすすんでやってくれます。せんたくものをたたんだりさいほうをしたりトイレそうじはお母さんがやることが多いです。どちらかがやらなければもうひとりはやることがふえてしまうのでいそがしくなっていたいへんになってしまいます。お父さんとお母さんはきょうりよくしてそれぞれがとくいなことをやっているんだと思います。

私はダンゴ虫をさがしたりトンボをつかまえたりザリガニつりをすることが好きです。前に、虫とりをしている男の子たちに

「虫とりにまぜて。」
と聞いたら

「女の子だからだめ。」
と言われたことがあります。

私は虫とりが好きなのにどうして女の子だからま
ぜてもらえないのかとかなしかったです。男の子の
ほうがとくいなこともあるし女の子のほうがとくい
なこともあると思います。でも、男の子だから女の
子だからときめつけないでみんなが好きなのをす
れば楽しいと思います。

講評

家族が協力し、支え合いながら男女平等について
学んでいることが伝わってきました。

職業についても現在は選択の幅が広がり、それぞれ
が得意なことをやれば良いという気づきはすばらしい
です。

優賞
最秀

一人一人が活やくできる社会へ

一箕小学校 五年 松林 玲奈

「男女共同参画」という言葉について、最近、テレビや新聞でよく見たり聞いたりしますが、実際には何を意味する言葉なのか分からなかったので、インターネットで調べてみました。

「男女共同参画」とは、性別に関係なく、男女が平等に社会に参加するということ、そのために「男女共同参画社会基本法」という法律まで作られています。日本は、すべての人が自分の意思によって、あらゆる分野で活やくできる社会を目指しているということが分かりました。

祖母に聞いてみると、祖母が子どものころは、女の人は家にいて、子どもの世話や家事をするのが当たり前だったそうです。中学校を卒業した後は農業の手伝いや洋さい学校などに行き、二十さいくらい

で結こんして子どもを産むのがふつうだったそうです。

今はちがいます。私の友人の両親のほとんどが共働きです。私の母も仕事をしていて、いそがしい時期は私がねてから帰たくすることもあります。小さいころは、母ともっと一しょにいたくて、「仕事をやめて家にいて」と言ったこともありましたが、でも、今になって考えてみると、仕事をしている母はともかっこいいし楽しそうです。母がいなくてさびしいと思うこともあります。母がいそがしいときは、父が宿題を見てくれたり、洗たくをしてくれたりしています。父は母がしっかり働けるように協力してくれています。「家族みんなが楽しくいられるように、でもそれぞれがやりたいことばかりでは家族がだめになってしまうから、みんなで相談して決めることが大事だよ」と、父が教えてくれました。私の家では男女共同参画社会がきちんとしてでき上がっていると思います。

家事がとくいな男の人もいれば、コンピュータがとくいな女の人もあります。私の家の近くにある会津大学は、コンピュータについて勉強するための大学で、学生の九〇パーセントが男子だそうです。確かに、男の人は算数がとくいで、女の人は国語がとくいとか、そういうけい向はあると思います。算数のとくいな人には男の人が多いため、会津大学に男子学生が多いのは当たり前のことだと思います。ただ、人それぞれに個性があつて、すべての人がそれに当てはまるわけではないので、算数やコンピュータが好きな女の人が、社会の「当たり前」に流されて自分の夢をあきらめることのないように、みんなが生きやすい社会になっていけばよいと思います。

それぞれの人が、やりたいことを自由にやれる「社会」になることで、その人の自信につながり、それがより良い社会につながると思います。私は将来、どんな職業につきたいか、まだはつきり決めていま

せんが、「女だから」といって自分の夢をあきらめることのないように、色々なことに参加したいです。

講評

共働きの両親が、それぞれに相手を思いやり、自分ができることを行うことで家族円満と男女平等につながっていると思います。

作品から、家族が互いを認めあい支え合って、あらゆる分野に共同で参画し、いきいき暮らしている様子が伝わるすばらしい作文です。

優秀賞

多様性ってなんだろう

東山小学校 四年 坂元 一輝

男女平等というと、「個性」や「多様性」をそんな重んずることが大事だといろんな人が言っています。ぼくは、どちらも意味がよくわからなかったので辞書で調べてみました。

個性とは、その人だけが持っている特別な性のことのことをいい、多様性とは、いろいろあるようすと書いてありました。二つの言葉の意味がわかって、それがどう男女平等と結びつくのか、正直よくわかりませんでした。この作文を書くにあたって、家族でいろいろ話し合ってみました。

ぼくが思ったのは、女の人は料理が上手という考え方です。お父さんもお母さんも仕事をしているので、お父さんもたまに料理をします。女の人でも料理が苦手な人、男の人でも料理がとく意な人もいます。料理にかぎらず、そうじやせんたくななどの家事

は、女の人ばかりがするのではなく、とく意な方がやるか、話し合いで決めるのがいいと思います。

お母さんは、ぼくがやっているバドミントンの大会で、男女別に試合が分かれているのが気になるそうです。上級生になると、体格や力に差が出てきて、スマッシュの速さで特にちがいが出てきますが、まだ体格や力の差があまりない低学年のうちには、男女を分けなくてもいいのではないかと思ったそうです。

お兄ちゃんは、なぎなたをやっています。なぎなたをやっている人の男女のわり合は、あつとう的に女の人が多いですが、とても楽しく、一生けん命やっているのに、「男のくせに」なぎなたなんかやっていると思われたり、なぎなたをやっていることにおどろかれることだけでも、少しいやな気持ちになるそうです。

お父さんは、そもそも野球やサッカーなどが男の人のスポーツという考えが古いと言いました。野球やサッカーだけでなく、ラグビーやボクシングなど、

はげしいスポーツをする女の人もいるし、新体そう
 やシンクロナイズドスイミングのようなはなやかな
 スポーツをしている男の人もいます。これこそが多
 様性だそうです。スポーツだけでなく、好きな物、
 好きな服、好きな音楽、やりたいこと、やりたい仕
 事は、人それぞれちがうものです。それを、男とか
 女とか、性別のせいだでせいげんされることがあつて
 はならないと思います。みんなのちがいを個性だと
 思って、まちがっていると言ったり、ひ定せずに、
 みんなの個性を受け入れれば、みんなが生き生きと
 すごすことができると思います。

↑
講評
 ↓

これまでは、あまり考えることのなかった個性や多様
 性について、家族で話し合ったことで一人一人の個性を
 尊重し受け入れることの大切さについて、考えを深めて
 いる事がすばらしいです。

優秀賞

平等な家庭をつくっていくために

城北小学校 五年 竹田 勇斗

ぼくは、毎日のお母さんとお父さんとの生活で不平等に感じたことがあります。

それは、毎日のすいみん時間です。ぼくは、お父さんのほうがすいみん時間が長くて、お母さんのほうがすいみん時間が短いと感じています。それは、なんでだろうと考えてみたときに、パツと思いつくのが、家事をする時間と、家事の量です。お父さんは、夕方にせんとく物を洗ったり、ほしたりしています。それと、お風呂そうじとごはんを食べる前のつくえふきをしています。それが終わるとソファでねころんでいます。しかしお母さんは、朝はやくおきて、お父さんの弁当をつくったり、お仕事から帰ってきたら、夕ごはんをつくります。ごはんを食べ終わったら食器洗いやそうじをしてから少しコーヒーを飲んだりして休みます。それから、ぼくのサツ

カー用具をあらってくれたり、次の日のお仕事の準備をしたり、ぼくのわからなかった宿題を教えたりして、ぼくがお風呂に入ってねてから、お母さんの自由時間になります。でも、その時間帯は真夜中で、もうお父さんはねています。それで、ぼくはこんなに不平等でつらくないのかお母さんにきいてみました。すると、

「自分がかれたときは、お父さんがやってくれから大丈夫。」

と言っていました。それをきいたぼくは、「家事をする量や時間は平等じゃなくても、思いやりで大変な気持ちをかバーすることができると感じました。思いやりをもって助け合うことで少しでも不平等をやわらげることができると思います。お父さんがつかれているときは、お母さんとぼくで手伝って、逆にお母さんがつかれているときはぼくとお父さんで手伝って協力しあうのがいいと思いました。」

優賞
最秀

固定概念の打破を願って

第一中学校 二年 櫻井 稟子

先日、ある歌手が自分は性同一性障害であることを告白しました。地域によっては同性での婚姻も認められています。ここ数年でずいぶん世の中が変わったと思います。

実は、私も小学校六年生の時に、自分の身体と心の性別に違和感を感じ、養護の先生に相談をしたことがあります。その時、先生は私に「相談してくださいありがとうございます」と言ってくれました。その時、なんだか自分の心が軽くなったような、救われた気持ちになりました。そこで勇気をいただいた私は担任の先生や話しかけやすかった若い先生にも同じ話をしました。すると、二人の先生も優しく話を聞いて理解してくださったので、改めて、「私は私らしくしていても良いんだ。」と安心しました。

ところが、学校で行われた「男女平等についての講演会」の後、何人かの人が、「男同士の結婚なんか気持ち悪いよね。」と話しているのが聞こえてきました。その輪の中には先生らしい姿もありました。その瞬間、私は体が怖いくらいに震えるのを感じました。近くにいた友だちが驚いて保健室に連れて行ってくれたくらいです。自分でも気づかないうちに涙が止まらなくなっていて、頭の中で、「なぜ？」「なぜ、男同士だとだめなの？」「結婚って好きな人同士がするものでしょう？」「同性ではだめって、偏見じゃないの？」と、叫んでいました。保健室で、養護の先生の顔を見た途端に、嗚咽が漏れて、ただ養護の先生に縋って泣くことしかできませんでした。養護の先生は黙って、私のことを抱きしめてくれたのがうれしくて、思いつきり泣き続けたのを覚えていきます。その後、落ち着いた私に、先生は「まだ、世の中では性についての理解が深まっていないから、同性愛者は悪者扱いされたり、気持ち悪がら

れたりしているのかもしれない。でも、同性同士の結婚を認めるのも私たち人間だから、性別を超えた恋愛が普通だと思うことは大切だと思うよ。そして、あなたが『この社会を誰にとっても、もっと生きやすい社会にしたい』という思いを持っていることは、知らないところで誰かを救っているのかもしれないよ。だから、あなたはあなたの中の正義を信じて、堂々と自己主張して行って良いんだよ。自分の正義を貫きなさい。」と言ってくれました。私はこのとき、人間というのはたった一言で傷つきもするし、勇気を与えられることもあるのだと思いました。そして、性差別について、もっと声を上げていかなければならないのだろうと思いました。

「男女平等」という言葉が本当の意味での性差別のない平等を指し示す世の中にできるように、私にできることを堂々と口にしていこうと思いました。「男だから」「女だから」という固定概念をなくし、

本当の意味で誰もが生きやすい社会にしていくのが私の夢です。

講評

自身の性の在り方について勇気を持って告白し、性差別の無い、誰もが生きやすい、本当の意味での平等な社会を目指していくことが夢であると堂々と公言し、強い意志、強い思いを感じる。性に対する悩み、心の葛藤が内容から伝わり、文章力とその勇気にとっても感銘を受けた。称讚したい。

賞秀優

時代にあつた男女平等

会津学鳳中学校 二年 江川 結咲

私の家族は、父、母、姉、私の四人で、両親は共働きです。祖父母は数年前に亡くなり、今は家事全般を母がしています。朝は家族の中で一番早く起きて朝食と姉のお弁当作りや洗濯物干し、夜は夕食作りや食器洗い、洗濯など全てです。いつのまにか「家事をするのは母が当たり前」になってしまったような気がしました。

毎年、母の日は父が家事をすることになっていきます。そんな風景を目にして、母は家事をすることが日常であるのに、なぜ父は特別な日だけ家事をするようになったのかわからずと感じていました。そこで、昔は専業主婦が多く、そのころの名残で女性が主に家事をすることが続いてしまっているのではないかと考えました。この風潮が続いてしまうと、女性たちの苦労が増える一方です。共働きの夫婦が

多くなっている現在、女性だけでなく男女で家事を分担することは、とても重要なことになっていくと思います。

また、この男女の差は育児にも見られます。私が生まれたとき、主に母と祖母が育児をしてくれました。私は、「なぜ父は育児を取らなかったの。」と母に聞くと、「そのころは育児を取る父親が少なく、家に育児のできる人がいるのに育児を取ると上司によく思われなかったから取れなかったんだよ。」と言われました。私は、父が育児をすることができていたら家事と育児の大変さや母と祖母の苦労を実感できていたのではないかと思いました。そして、男性も家事をすることが大事だと知れたかもしれない。私はなにより、小さいときに父と過ごした時間が少なかつたと思うと悲しい気持ちになりました。しかし、最近は男性も育児をすることが推奨されるようになってきました。まだまだ女性の負担の割合が高いのが現状ですが、少しでも男性の割合が高く

なっているのは嬉しいです。今後さらに男性も育児をすべきだという考え方が広まってほしいと思います。

男性も家事と育児をして、男女で協力し合うには、協力する必要性を知ってもらい、習慣化させると思います。そして、子供が家事をする父親を見て育てば、大人になってから男性も家事をすることが当たり前と感ずるでしょう。私は、父にこれらを伝え、食器ふきと洗濯物たたみを分担しようと提案しました。すると、夏休みの間に少しずつ家事を手伝ってくれるようになりました。父が加わり家事をすると、早く家事が終わり、母の気分が良さそうで私も嬉しくなりました。父は家事が習慣になってきているようで、家事を続けていきます。この一夏で、わが家はとても成長することができました。

私が大人になるころには、男女共に助け合っ家事と育児をすることが当たり前になっていると思います。

講評

共働きの夫婦が多くなっている現在、女性だけでなく男女で家事を分担することは、とても重要なことになっていくという気づきから、男女共に助け合っ家事と育児をすることが当たり前になっているといいという思いにつながっている点がすばらしいと思いました。

賞
秀
優

祖母が教えた男女平等

会津学鳳中学校 二年 甲斐 泰平

「おまえが大人になる頃には男も家事をするようになる。だから今から家事を覚えておくんのだ。」

子供の頃、父は祖母からそう言われ、料理や洗たく、掃除を教えこまれたそうだ。祖父は仕事人間で、家事は全くやらなかったため、父はなぜ自分が家事を覚えねばならないのかと不満に思ったそうだ。

時が流れ、父は保育士として働いていた母と結婚した。そして私が生まれた後も、母は保育士として働いている。母は帰りも遅く家で書類の仕事もするため、父と家事を分担している。父が料理や掃除、母は洗たくを担当している。だから私にとって、男性が家事をすることは幼い頃から当たり前の事で、それが普通だと思っていた。

しかし、この作文を書くにあたり、ネットで勉強したところ、意外な事を知った。今から約三十年前

までは、学校で家庭科を学ぶのは女子だけ、逆に男子だけが技術科を学んでいたそうだ。その頃までは「女は家を守るもの」という考え方があり、今より結婚した女性が働きに出ることが少なかったそうだ。

また、現代社会は多様化が進み、ビジネスにも男性だけでなく女性からの視点も求められており、更に人口減少が進む日本では女性も労働力として社会で活やくしていくことが必要になっていくそうだ。そして、そのために重要なのが、働く女性が子供を預ける保育士という仕事であることを知った。

しかし、働く女性がどんどん増える一方で保育士が不足するという問題が起きている。日本には保育士になるための短大などが多くあるように思えるが、なぜ不足しているのか。

調べてみると、大きな理由が二つあった。

まず一つは女性の社会進出に伴う保育施設の拡充。もう一つは、「潜在保育士」の問題である。保育士の資格はあるのに保育士として働かない人が多いの

である。仕事がきつい、家に持ち帰る仕事が多い、給料が安い、といった理由があるそうだ。そして何より、それらの理由により、結婚後に家庭との両立を考え、保育士を辞めてしまうことが大きな原因となっているそうだ。

女性の社会進出に必要な不可欠な保育士が家庭との両立に悩み、保育園を去っていく、何だか本末転倒な話だ。

そう考えた時、両親が家事を分担し、母が保育士を続けていることで、何人もの働くお母さんたちが助かっているのだと感じた。一つの家の中の、小さな小さな男女平等だけれども、それが女性の社会進出に役立っているのだから、祖母が父に教えたことは正しかったんだな、と思った。

自分がどんな大人になるのか、まだわからないけれど、二十一世紀を生きる人間として、男女平等を常に意識して成長していきたい。

講評

家事を分担することで保育士不足を解消していくという、壮大で素晴らしい考えです。おばあさんの教えや、それを実行するお父さんも立派ですね。保育士が働きやすい体制を考えていくことも、今後社会にとって大きな課題になりますね。

優秀賞

性別にとらわれず

一箕中学校 二年 塚田 陸斗

私は十四歳でまだまだ子供だが、今まで生きてきて男女差別を感じたことがなかった。学校では男女平等で、男だから女だからと、男女の違いを意識したことがなかったからだ。しかし、周囲の人達は、私に男女不平等の意識を植えつけていく。

私は長男で、二歳年上の姉がいる。両親が三年前に家を購入した時、親戚の大人達が、「男の子がいるから、家を継いでもらえて良かったね。」

と私を見ながら話していた。なぜ、男だから家を継がなければいけないのだろうか。家族のことは大切だが、男だからといって、自分の将来を勝手に決めつけないでほしいと思った。両親は、

「子供のどちらかが家を継いでくれると嬉しいが、性別は関係ない。性別にとらわれずに自分の人生を生きてほしい。性別を理由にしてほしくない。」と話していた。男は跡継ぎ、女はお嫁に行くという考えが、昔はふつうだったらしい。昔は男尊女卑が当たり前だったから、その偏った考えを私達に当てはめようとする。昔と今では、時代が変わり、男女平等を目指す社会になっているが、時代の変化に気付かない人達は、私達をほっといてくれない。無意識に男女差別の価値観を押しつけてくる。

今はランドセルの色がカラフルだ。赤や青、黒、茶色、紫など、様々な色がある。しかし両親の子供時代は、男は黒、女は赤と決まっていたらしい。そう決まっていたから、それが当たり前だと何の違和感ももたなかったらしい。今の時代は自由に選べることに驚いていた両親に、私は驚いた。今の時代のランドセルは、色も形も飾りも、ししゅうも自由に選べる。私は黒色に青色のししゅうを選んだ。ラン

ドセルのように、今を生きる私達は性別にとらわれず自由だ。選べる選択肢がなかった祖父母や両親の時代、男女関係なく好きなように選べる今の時代。

時代は変わる。男は黒、女は赤という昔の固定観念は捨てて、他のカラフルな色を性別のイメージにあてはめずに見てほしいと思う。ピンクは女の子だけの色ではない。黒も男の子だけの色ではない。全ての色は、男女関係なく、皆の色ではないだろうか。

私にとっての男女平等とは、性別に関係なく、自分らしく生きることだ。性別を理由に、好きなことを諦めたり、将来の可能性をつぶされてしまったりしない社会。男だから、女だからではなく、性別を理由に否定しないで互いの個性を認めあうことが大切だと思う。男女は体つきや出産など違いがあるため、男女区別は必要だが男女差別は必要ない。差別か区別か、受け止め方は人それぞれかもしれないが、全てにおいて男女平等は難しいと思う。性別に関係

なく、互いを思いやり尊重し合うことが、男女平等への第一歩ではないか。

講評

日常生活で生じた疑問から、性別にとらわれずに個性を認めあうことの大切さに気付き深く考察している点、また、男女区別と男女差別の違いに着目している点もすばらしく、鋭い洞察力を感じる力作である。

男女共同参画都市宣言

(市制百周年記念)

美しい自然と確かな歴史、豊かな文化に恵まれた会津若松市の市民として、誇りと自信を持ち、男女の平等を基本理念に、「男女共同参画都市」を宣言します。

- 1 わたしたちは 性別にとらわれず、ひとりひとりの人権が尊重され、個性と能力が生かせる会津若松市をめざします。
- 1 わたしたちは お互いを認めあい支え合って、あらゆる分野に男女が共同で参画でき、いきいきと暮らせる会津若松市をめざします。
- 1 わたしたちは 共に手を取りあい、かけがえのない地球の環境を守り、平和で豊かな会津若松市をめざします。

2000年2月27日

会津若松市

市では、平成31年4月から令和6年3月を計画期間とする「第5次会津若松市男女共同参画推進プラン」を策定し、「性別にかかわらず、多様性を尊重し、一人ひとりがその個性や能力を十分に発揮することができるまち」を目指して、市民の皆さんや事業者の方々とともに取組を進めています。

会津若松市
UDキャラクター
ゆにばくん



発行 令和6年1月

会津若松市 企画政策部 企画調整課 協働・男女参画室

〒965-8601 会津若松市東栄町3番46号

TEL 0242-39-1405 FAX 0242-39-1400

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2019122600010/>



この作品集は市のホームページにも掲載しています。